
「脳血管手術における術中赤血球輸血に関わる因子の検討」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。

本研究は、埼玉医科大学国際医療センター臨床研究 IRB の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2019年1月1日から2023年11月30日の期間に埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科に受診または入院され、頭部外傷（硬膜下血腫、硬膜外血腫など）を含めた脳血管疾患（脳出血、くも膜下出血、脳動静脈奇形、脳動脈瘤、もやもや病など）と診断され、手術を実施した患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

脳卒中外科において手術を行う際に赤血球輸血を要することがあります。特に緊急手術や難易度の高い脳動静脈奇形摘出手術では予想以上の出血が出ることもあり、赤血球輸血を行う頻度が高いことが想定されます。近年輸血の安全性は高まったとはいえ、重篤な副作用の報告もまたなされており、さらに輸血量が増えるに従って患者さんの予後の悪化に寄与するという報告もあります。可能な限り周術期の輸血を制限する考え方として Patient Blood management (PBM) があります。PBM に従い、まず脳卒中外科における術中赤血球輸血の調査を行うこととし、適正な輸血がなされているかと術中輸血に関わる因子を調査することで、輸血量を制限する取り組みを検討しようとしています。

3. 研究期間

病院長の許可後～2025年12月31日

4. 利用または提供の開始予定日

研究実施許可後から、約1か月程度

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科で治療を行った頭部外傷を含めた脳血管疾患の患者さんの診療記録、手術記録から収集した年齢や性別、術式、手術前のヘモグロビン値、術中出血量など。

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学国際医療センターにおいて、研究責任者で

ある武裕士郎が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

頭部外傷（硬膜下血腫、硬膜外血腫など）を含めた脳血管疾患（脳出血、くも膜下出血、脳動静脈奇形、脳動脈瘤、もやもや病など）と診断された患者さんの検査データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

研究責任者 埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科 武 裕士郎

研究担当者 埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科 矢作 宜之

研究担当者 埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科 前田 拓真

研究担当者 埼玉医科大学国際医療センター輸血・細胞移植部 石田 明

研究担当者 埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科 栢原 智道

研究担当者 埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科 鈴木 海馬

研究担当者 埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科 栗田 浩樹

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学国際医療センター病院長 佐伯 俊昭

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学国際医療センター 脳卒中外科 武裕士郎

住所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

電話：042-984-4177（土日祝日を除く 8：30～17：30）

○研究課題名：脳血管手術における術中赤血球輸血に関わる因子の検討

○研究責任者：埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科 武裕士郎